

 評価のポイントCL-3.看護実践能力：ニーズをとらえる力
[2-3] 回復過程（病期）とケアの優先度の判断

<事例>

患者Aさん 55歳 男性 糖尿病、アルコール性肝硬変
腹部膨満感強く、著明な腹水貯留にて入院し2日目
身長160cm、体重64.0kg、るいそう著明、意識清明
眼球結膜黄染、クモ状血管腫、手掌紅斑あり
体温37.0℃、血圧100/70mmHg、脈拍100回/分、呼吸数20回/分
塩分5g/日制限食、たんぱく質量64g/日、利尿剤投与
腹部膨満感強く、食事摂取が進まない。
独身独居、仕事は貨物運送の長距離ドライバー
外食が多く、仕事後の飲酒が楽しみである。入院期間は2週間程度の予定。

1. Aさんの身体的、精神的、社会的苦痛を挙げてください。
2. Aさんの長期目標、短期目標を考えてください。
3. 目標に合わせて、必要なケアを列挙し、ケアの優先度を判断してください。

配布資料14を参考に身体的、精神的、社会的苦痛を考える。

その中で、苦痛へのケアを選択するときは、緊急性、安全性、重要性が高いものが優先される。

急性期である現在は、身体的苦痛へのケアが優先される。

身体的苦痛が改善されなければ、腹水穿刺などの治療介入を医師と検討する必要性もある。

しかし、飲酒できないことへの精神的苦痛や他人との入院生活など社会的苦痛も考えられる。

さらに、本疾患や患者背景から、食事指導や内服指導が必要になる。

症状がコントロールできず、原疾患が進行すれば肝性脳症などへの移行も考えられる。

利尿剤の内服のこともあり、現仕事の継続は調整が必要となる可能性がある。

急性期の段階から、退院後を見据えて、栄養士、薬剤師、MSWをはじめとしたチームでの介入が必要となる。

本患者の回復過程では治癒は難しそうであり、維持期、慢性期に向け、退院時にどうありたいか、長期目標を立て、そこに向かって急性期の現在の短期目標を立て、必要なケアを考え、優先度を判断してほしい。